

第46回 静岡県障害者文化作品展【絵画】部門

最優秀賞 大川 洋司 さん

題 名 『富士宮浅間神社と神田川』



広大な富士山を背景に、浅間神社と神田川の様子を表した作品で、見る人の気持ちもさわやかに晴れ渡るようです。写真をもとにして、コンピューターグラフィックの機能を駆使していますが、機械的な冷たい印象にならずに作者の想いが伝わってきます。

前景が縦の5分の3、遠景が5分の2の比率になっており、いいバランスだと思います。道路の柵と神田川による一点透視法の構図が効果的で、画面に力強い奥行きが描かれています。

全体的には青の基調ですが、奥の鳥居だけを朱色にしたことで全体的に引き締まり、青と赤の双方が生かされています。川の波立ちや泡立ちの表現も魅力的です。

画面全体がやや右に傾いてしまったのが残念です。CGなので、画面を水平に直すことも可能だと思いますから、ぜひ直してみてください。

次回の出品にも期待しています。

令和2年11月12日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一

第46回 静岡県障害者文化作品展【写真】部門

最優秀賞 石川 博彬 さん

題 名 『太陽のせいくらべ』

袋井市の原野谷川にかかる静橋の彫刻「せいくらべ」を題材にした作品です。青空に輝く太陽に、画面のすべてが逆光で捉えられています。

雲の流れが太陽の左下から弧を描いて画面の右下まで伸びており、前から奥に向かう大きな動きを感じさせます。そして、大きく動的な空の下に3人の母子の彫刻が、時間を止めたようにシルエットで浮かび上がっています。台に乗り空に向かって手を伸ばす子は、雲に触れようとしているみたいです。太陽の光を全身に浴びた3人の姿には生きる力を感じさせ、作者の感動が伝わってきます。

下方に彫刻以外の物の影がわずかにはいつてしまったのが残念です。これがあるために、そこが「地上」だということに気づいてしまいます。もしも3人の彫刻のみが写っていれば、空中の雲の中にいるようにも見えたでしょう。

次回の出品にも期待しています。

令和2年11月12日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一



第46回 静岡県障害者文化作品展【工芸】部門

最優秀賞 池中 義一 さん

題名 『花瓶』



ふっくらとした胴と太めの首が印象的な花瓶で、釉薬が縞模様で構成していることも特徴的です。流れた釉薬がギリギリのところとどまっていることがユーモラスです。

口の部分が大きく開いており、その内部まで丁寧に釉薬を流していて、作者がこの作品を大事に作ったことが感じられます。水を入れたときの重さでも無理なくもてるように、とても実用的に作られています。

花瓶そのものに力強さがあるので、生ける花や木もそれに負けないような大きさや強さのあるものもいいかも知れませんね。ぜひご家庭で有効利用してください。

次回の出品にも期待しています。

令和2年11月12日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一

第46回 静岡県障害者文化作品展【手芸】部門

最優秀賞 佐藤 たき子 さん

題 名 『テーブルクロス』



繊細でありながら、堂々たる姿のレース編みのテーブルクロスです。一年以上かけて、途中で投げ出しそうになりながら、ついにやり遂げたという感じでしょうか。

御自分では「うまくできていません」と謙遜されていますが、見る人を、とても伸び伸びとした大らかな心持にさせてくれます。細部にばかり気持ちが偏った神経質な感じが全くないのです。それは、大変細やかな心遣いをしていながらも、つねに作品全体の構成を頭の中に描いて、大きな心で見ながら作品に取り組んでいたからだと思います。そして、この作品を通して、誰かに楽しみや喜びを伝えたいと思いながら制作されたからでしょう。誠に気持ちの良い作品でした。

次回の出品にも期待しています。

令和2年11月12日

【講評】 審査員（静岡県立沼津視覚特別支援学校長）馬場 俊一